

田敏夫、利夫両人は大会ごとに大活躍し、新聞紙上のスポーツ欄をにぎわした。

現在は、町体育協会の中に十四部門があり、町民のスポーツ向上に努めている。

第九章 人物



この人物は、町民のスポーツ向上に努めた。...

1、飯尾常房

(七十七ページ参照)

2、志士 藤井藍田

藍田の父を卯右衛門といい、牛島村の出身で大阪の豪商であった。藍田は文政十三年（一八三〇年）大阪で生まれ、家業の呉服商をきらい家を嫡男に



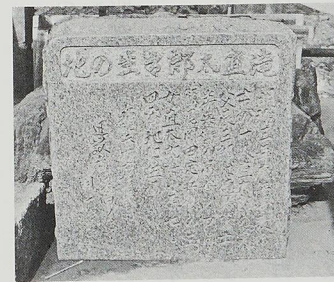
藤井藍田の掛軸
(西覚寺蔵)

譲って、尊王攘夷の渦中に身を投じ、吉田松陰、桂小五郎などと勤王に尽くした。そのため幕吏に追われる身となり、阿波で

逃亡生活を送ったが、慶応元年（一八六五年）大阪に帰ったさい捕えられ、翌五月十二日、西奉行所の獄中で死亡したと伝えられている。

3、庚午事変志士 滝直太郎

直太郎の父辰三郎は、徳島藩士滝半兵衛の弟で、浪人となり、飯尾に来て塾を開き、子弟を教えていて岡田ノブと結婚し直太郎をもうけた。直太郎は長じて新居水竹の門下生となり、蜂須賀候に聘せられた。明治三年（一八七〇年）稲田分藩問題に主謀者の一員として活躍したが、責を問われて他の九名とともに死を命ぜられ、住吉蓮花寺において切腹した。この切腹は日本最後の切腹として銘記すべきであろう。



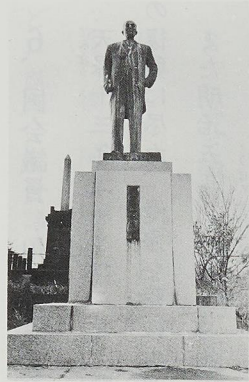
滝直太郎碑

4、大蔵大臣 藤井真信

明治十八年（一八八五年）一月一日、牛島の藤井市三郎の四男として生まれ、

東大独法科を卒業して大蔵省に入り、昭和九年（一九三四年）五月には大蔵次官となり、同年七月高橋是清内閣の大蔵大臣となったが、その年の十一月には病のため辞任、同十年（一九三五年）一月慶応病院で死亡した。

5、運輸大臣 岡田勢一



岡田勢一碑

明治二十五年（一八九二年）牛島に生まれ、苦学して大阪造船学校を卒業、サルベージ技術をふりだしに努力を重ね、太平洋戦争前には十数万吨の船舶を擁して、海運界に活躍した。

戦後、氏は主にサルベージ業に専念したが、衆議院議員当選五回、芦田内閣の運輸大臣に就任した。

生前は県育英事業や社会事業に貢献したが、その主なものは城北高校、牛

島小学校講堂の建設、徳島県立医学専門学校設立の資金、師範学校の復興のための寄付などである。

6、国会議員 川真田市兵衛

天保十三年（一八四二年）鴨島の藍商の家に生まれる。衰退期にあった藍の復興に尽力、優秀な藍の生産に努め阿波藍の声価を高めた。

また明治五年（一八七二年）川島から喜来までの江川南岸堤防を築くことを企画し、東奔西走同志を集めてついに完成し、洪水の災害から地域を救ったのである。

また、阿波国共同汽船株式会社を設立して社長となり、また電燈会社を起すなど、社会の進歩に貢献するとともに政界でも活躍した。

7、国会議員 川真田徳三郎

万延元年（一八六〇年）鴨島の製藍業者の家に生まれた。前掲川真田市兵衛とともに、阿波藍の品質改良と販路の拡張につとめるかたわら、阿波国共同汽船株式会社の創立に努力して、阿波藍の運送費の節約につとめるとともに、陸上交通の開発を企図し、明治三十三年（一九〇〇年）八月、徳島―舟戸間の鉄道開通に尽力し、後、会社の社長となり、また、政界でも活躍した。

8、国会議員 須見千次郎

弘化三年（一八四六年）美馬郡に生まれたが、敷地の須見徳平の養子となった。後、阿波紡績監査役、徳島毎日新聞監査役、八十九銀行取締役社長などに就任、国会議員として政界でも活躍するかたわら、商工業の発展に努め、また、家業の製藍業を継続するとともに、阿波藍の改良に努めた。

9、徳島県知事 阿部邦一

明治三十二年（一八九九年）牛島に生まれ、東大を卒業後、愛知県内政部長などを歴任、退官後昭和二十六年（一九五一年）徳島県知事に当選し県政に尽くした。

10、大僧正泉智等



泉智等碑

嘉永二年（一八四九年）鴨島に生まれ、後高野山及び京都智積院などで仏学を修め、京都仁和寺門跡、真言宗泉涌寺管長、高野山金剛峯寺座主、高野山大学総理などを歴任、昭和三年（一九二八年）高野山金剛峯寺において遷化した。現在、鴨島公園内にその銅像が建っている。

11、画家 近久雪巖・河村李軒・林雲谿

近久雪巖は上浦の人で、安政二年（一八五五年）に生まれ、学校の教師として勤めるかたわら、南画を雪庵和尚に学び、雪巖と号したが、特に百玉の図を得意とし今に珍重する人が多い。

河村李軒は明治二十九年（一八九六年）川島町に生まれたが、後西麻植に移住、画家を志し京都に出て南画家池田春渚や甲斐虎山に師事し、別府に居を構え、文展、南画展その他の展覧会にしばしば入選して活躍したが、昭和二十八年（一九五三年）死亡した。

南画家林雲谿は明治三十六年（一九〇三年）森山村中島に生まれ、後大阪



近久雪巖の画

に出て、大阪美術学校に学び、久松錦城、赤松雲嶺に師事し、南画の技を磨

き、画塾「白雲社」を起こし、関西画壇で活躍している。日本南画界の重鎮であり、藤井寺の本堂の天井画の龍は雲谿及び門下生の合作であり、母校森山小学校に昭和五十八年（一九八三年）頌徳碑が除幕された。



林雲谿の画

12、呉郷文庫 石原六郎

明治六年（一八七三年）飯尾に生まれた。家業を継ぎ藍の製造にはげんだが、後明治三十六年（一九〇三年）ドイツ人ボトルと特約し、人造藍を輸入し、大同藍株式会社を設立して全国に販売した。商才にたけた人ではあるが、

阿波人であって阿波藍に対抗したのである。

大正四年（一九一五年）、郷土史書を集めて飯尾に「呉郷文庫」を作り、一般に開放したり、「呉郷育英社」を作って高等学校及び大学の秀才学生の学資を給与したりして英才教育に努めた。

13、俳優 曾我廼家五九郎

明治九年（一八七六年）上下島に生まれ、後東京に出て俳優として喜劇界で大成、浅草演劇界を風靡したが、昭和十五年（一九四〇年）不遇のうちに病死した。

14、石油業 松村善蔵

上浦に生まれた氏は、明治三十四年（一九〇一年）十六歳で神戸の西村商店の店員からたたきあげ、遂に丸善石油株式会社を創立して日本の石油業界のト

ツプに立った。我が国商工業界の英才といつても過言ではない、立志伝中の人である。

15、実業家 近藤廉平

西麻植の地に嘉永元年（一八四八年）生まれた。近藤家の先祖は、四代前から代々医を業とし、曾祖父は峰須賀家の侍医であった。廉平は長じて新居水竹の門をたたき、後東上して大学南校に学び、岩崎弥太郎の寵を受けて、後日本郵船社長となり、第一次世界大戦の時パリ講和会議に参列、大正十年（一九二一年）死亡した。

16、実業家 和田嘉衡

元治元年（一八六四年）西麻植に生まれ、上京して苦学力行、計器製作に成功し、後には東洋酸素会社社長、日本光学工業取締役などを歴任、郷土の

ために神社、仏閣、学校などに多額の寄付をしている。

17、実業家 工藤鷹助

西麻植の人、家業の製藍業から、いち早く蚕種製造にふみ切り、大正末期には従業員四百人余をかかえ、工藤館といえは県下では誰知らぬ者もない程の大会社であった。蚕種の製造高も全国で十位以内といわれている。

また私費を投じて江川遊園地を建設、県民の憩いの場として提供した功績は、全国でも珍らしいことである。

18、中正曆発明創始者 工藤茂三郎

飯尾に生まれ、曆法の研究に勉め、明治三十年（一八九七年）中陽曆（後中正曆と改めた）を発表した。この曆の骨子は、農業に従事する者の仕事は、天地自然の運行に従うべきであり、年の始めを立春に定め、立春、立夏、立

ろうじゅめいぼく
老樹名木一覽表

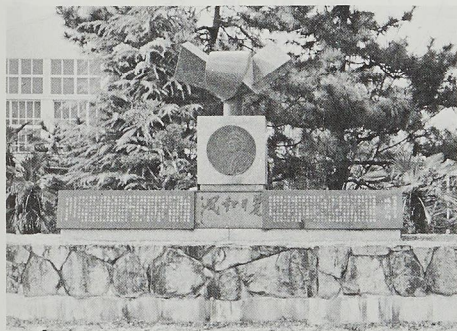
(S58.6.22調査)

	樹種	所在地	管理者	樹周m	樹高m	推定樹齢	備考
1	樺(けやき)	上浦	八幡神社	2.98	31	260	
2	イチョウ	牛島	杉尾神社	4.40	25	310	
3	樟(くす)	〃	神木神社	5.50	14.5	410	
4	銀モクセイ	〃	西覚寺	1.70	3.5	200	
5	棕(むく)	〃	八幡神社	4.40	20	360	
6	泰山木	〃	藤井太郎、岡田猛	2.00	20	150	
7	金モクセイ	〃	〃	2.52	10	150	
8	モチ	〃	八坂神社	4.85	16	520	
9	イチョウ	麻植塚	五所神社	6.00	24	360	
10	四本松	〃	西円寺	1.28	5	150	
11	モクコク	山路玉林寺	鴨島町教育委員会	2.00	13	370	県指定
12	樟	森藤	〃	10.30	35	910	県指定
13	樟	〃	大竜王神社	5.90	30	550	
14	イチョウ	〃	八幡神社	2.46	26.5	250	
15	椿	〃	波辺恭平	2.33	7	360	
16	松(赤)	〃	後藤田淳実	1.48	6	120	
17	イチョウ	飯尾	報恩寺	4.47	25.5	260	
18	樺	〃	飯尾敷地小	3.22	17	120	
19	イブキ	敷地	須見千次郎	1.59	9.1	160	
20	樟	〃	敷島神社	5.30	32	410	

鴨島の地に県会議員川真田萬太郎の長男として生まれ、長らく旧制麻植中学校の教師として教育にたずさわったが、戦後鴨島町長、県議会議長にも選ばれ、県政、町政につくした。麻植、阿波を結ぶ中央橋建設に対する功績はその最たるものであろう。現在鴨島公園内にその頌徳碑が建っている。

19、県議会議長 川真田郁夫

秋、立冬はそれぞれ春、夏、秋、冬の初めであること、また春分、夏至、秋分、冬至は春、夏、秋、冬を中心であることなどである。



川真田郁夫碑

歴史年表

大化二年 (六四六)	六世紀	古墳時代	弥生時代	縄文時代	無土器時代	年代(西歴)	事項
本町は麻植部に属す	呉羽神社(現石碑あり)の伝承	全町にわたって山麓や台地上に古墳発見、出土品多数	敷地赤坂遺跡から石棒など発見 森山、三谷遺跡から土器多数出土 森山や上浦から銅鐸出土	西麻植東禪寺遺跡で住居跡、縄文式土器など発見 有舌尖頭器敷地字長原で発見	西麻植壇の原で剥片石器出土	森山層から旧象のものと思われる骨、牙など、四不像の骨など出土	

21	杉	槌山地	八幡神社	4.98	35	410	南
22	松	〃	河野武	0.9	2	130	南北13.9
23	モミ	西麻植	八幡神社	2.40	33	200	
24	泰山木	〃	〃	1.30	14.5	100	
25	しだれ桜	〃	松本歌子	1.33	14.6	150	八幡神社 宮司宅
26	松	〃	笠松神社	3.70	23	300	
27	モクコク	〃	河野貞男	1.21	4	370	
28	エノキ	〃	工藤禎造	3.80	28	320	
29	イチヨウ	鴨島上下島	若宮八幡神社	3.48	21.5	200	
30	ナギ	鴨島	八幡神社	0.87	11	60	
31	松	〃	戸田総	0.9	3	120	
32	マキ	鴨島喜来	徳住寺	1.75	10	150	
33	ふたまた樟	鴨島	若宮神社	5.34	25	130	
34	松	〃	岡本鶴吉	1.2	10	150	
35	エノキ	鴨島喜来	杉尾神社	4.84	27	360	
36	チサ	鴨島	常教寺	1.33	5.4	80	
37	みるすべり(白)	〃	筒井康二	1.5	6.4	200	5 枝
38	帆かけ松	知恵島	北川義一	0.8	2.5	120	東西12.9 南北2.7
39	エノキ	〃	若宮神社	2.75	23	300	
40	桑	〃	徳島興発KK (吉野川遊園地)	1.80	14	80	吉野川 遊園地内
41	樺	〃	八幡神社	3.28	25	300	

永享十年(一四三八)	麻植塚西円寺創設
文正二年(一四六七)	牛島杉尾神社に麻苧桶に文正二年の銘あり
文明四年(一四七二)	犬神退治文書に飯尾常連の名見ゆ
延徳三年(一四九一)	このころの仙光寺文書多し
天文十三年(一五四四)	常教寺開基
天文十八年(一五四九)	藤井寺本尊修理
天文十九年(一五五〇)	山路善正寺開基
天文二十一年(一五五二)	内原城主蓮池清助勝瑞にて死亡
永録六年(一五六三)	持福寺釈迦図(明の嘉靖四十二年の銘)
天正七年(一五七九)	脇城外の戦、鴨島城主鴨島六之進、飯尾東城主麻植志摩守等多 数戦死
天正十年(一五八二)	中富川の戦、乗島城主乗島来心戦死
天正十五年(一五八七)	持福寺地蔵十王図(明・万曆十五年の銘)
天正十六年(一五八八)	麻植須賀村、喜来村検地帳写あり(太閤検地)

靈龜元年(七一五)	本町は呉島郷となる
延喜七年(九〇七)	牛島杉尾神社・西麻植中内神社 延喜式内社となる
延長五年(九二七)	呉島郷名あり「倭名類聚抄」成る(阿波国九郡四六郷)
久安四年(一一四八)	藤井寺の本尊にこの年の銘あり
文治二年(一一八六)	平康頼、麻植保司となる 康頼熊野神社勧請
承久三年(一二二一)	承久の変に平清基公家方に与し麻植保司を失う
寛喜二年(一二三〇)	小笠原貫道牛島に浄土真宗「森の坊」創建(現 西覚寺)
正応二年(一二八九)	こうべ寺(昭和二十九年発掘) 一遍聖絵に記事あり
	このころすでに持福寺、報恩寺、三谷寺、仙光寺、牛島宝王院、 円通寺なども建立されていたと思われる
正和五年(一三一六)	飯尾報恩寺板碑 正和五年(一三一六)
	元亨元年(一三二一)
正平年間(一三四六〜六九)	僧善智、山路に仙光寺再興、仙光寺文書
応永二十九年(一四二二)	三月十九日飯尾常房生る

慶長三年(一五九八)	福生寺、飯尾より川田村に移り、駒路寺となる
慶長五年(一六〇〇)	蜂須賀至鎮阿波に封ぜられる
慶長九年(一六〇四)	牛島村、麻植塚村、西麻植村、上下島村各検地帳あり(此の頃幕府の命により検地施行)
元和元年(一六一五)	このころより鴨島に藍作奨励され作付次第に多くなる
元和八年(一六二二)	西麻植十力寺再興
寛永年間(一六二四〜四四)	このころ飯尾神社創建
延享三年(一七四六)	三谷八幡神社縁起
寛延四年(一七五一)	内原荒神社の石燈籠
宝歴六年(一七五六)	五社宮事件 「監物堤」築造 二年より五年に続く連年饑饉、國中八幡神社奉祀
天明二年(一七八二)	このころ康頼神社建立 飯尾の義人弥五郎処刑
文政十三年(一八三〇)	林居陵持福寺で子弟を教授

天保五年(一八三四)	西麻植八幡神社陶製狛犬
安政三年(一八五六)	このころより鴨島町林儀助、毎年信州より蚕種を購入して帰り郡内へ分配
明治三年(一八七〇)	庚午事変(稲田騒動) 庚午志士滝直太郎日本最後の切腹
明治五年(一八七二)	藍赤場株解放の布達 八月学制発布
明治七年(一八七四)	旧各村小学校この年より創設
明治八年(一八七五)	丸亀連隊編成され本町民、丸亀に入隊
明治十八年(一八八五)	天理教鴨島分教会布教始まる
明治二十年(一八八七)	阿波国共同汽船株式会社創立(社長川真田市兵衛)
明治二十二年(一八八九)	黒住教布教始まる
明治二十五年(一九〇二)	鴨島に達磨製系起こる
明治三十二年(一九〇九)	牛島堤防破堤被害甚大 二月十六日徳島、鴨島間私鉄開通

昭和二十七年(一九五二)	町教育委員選挙、委員会発足
昭和二十六年(一九五一)	鴨島保健所竣工 河童ベントクラブ誕生
昭和二十五年(一九五〇)	天皇陛下四国巡幸の際鴨島グラウンドにて奉迎
昭和二十四年(一九四九)	町公民館設置
昭和二十二年(一九四七)	鴨島町大火災
昭和二十一年(一九四六)	川柳句誌「七曜」生る
昭和二十年(一九四五)	キリスト教鴨島兄弟教会発足
昭和十六年(一九四一)	第二次世界大戦終結
昭和十三年(一九三八)	森山にて旧象化石発掘
昭和八年(一九三三)	鴨島公園内に県下初のプール完成 鴨島体錬場建設

明治四十年(一九〇七)	佐渡製糸工場設立
明治四十一年(一九〇八)	五月一日麻名用水通水
明治四十三年(一九一〇)	筒井製糸株式会社創立
大正三年(一九一四)	鴨島公園保勝会結成
大正四年(一九一五)	石原六郎により呉郷文庫創設
大正五年(一九一六)	テニスクラブ「暁クラブ」「田園クラブ」結成
大正七年(一九一八)	徳島水力電気鴨島出張所開創、電燈ともる
大正八年(一九一九)	徳島県蚕業試験場竣工、前川より移転し来る
大正十年(一九二一)	鴨島裁縫学校にてキリスト教布教はじまる
大正十一年(一九二二)	片倉製糸工場操業開始
大正十二年(一九二三)	鴨島菊人形始まる
大正十四年(一九二五)	金光教布教始まる
昭和三年(一九二八)	江川遊園地起工
昭和五年(一九三〇)	八幡橋竣工二月七日落成式

昭和二十八年(一九五三)	中央橋開通
昭和二十九年(一九五四)	牛島村、先須賀地区を併合 鴨島町婦人会連合会発足
昭和三十年(一九五五)	三月三十日牛島、森山、西尾、鴨島合併、新鴨島町発足 樋山地を編入合併
昭和三十一年(一九五六)	西麻植に麻植酪農集乳所設立(現明治乳業)
昭和三十二年(一九五七)	三月三十一日知恵島を合併 鴨島町役場新庁舎竣工
昭和三十三年(一九五八)	町立鴨島商業高等学校創立 町内有線放送開設
昭和三十四年(一九五九)	国道一九二号線東より開設 かっぱう句会結成
昭和三十六年(一九六一)	鴨島町天寿会(老人クラブ)発会式 鴨島町同和教育推進協議会発足
昭和三十九年(一九六四)	三月一日鴨島商業高等学校県立移管 鴨島町誌発刊

昭和四十五年(一九七〇)	第一回かもじまつり開催
昭和四十七年(一九七二)	飯尾コミュニティセンター開館 鴨島町子ども会連合会発足 東禅寺遺跡発掘調査
昭和四十九年(一九七四)	鴨島町PTA連合会発足
昭和五十年(一九七五)	少年の森開設
昭和五十二年(一九七七)	神島会館開館 中央家庭婦人学級開設
昭和五十四年(一九七九)	鴨島町青年団体連絡協議会発足
昭和五十五年(一九八〇)	中央公民館新館開館 手話サークル発足
昭和五十七年(一九八二)	鴨島町社会教育振興大会第一回開催 西麻植会館開館
昭和五十八年(一九八三)	吐気山古墳発掘調査 青少年野外活動センター開場

※備考 災害、検帳、棟付帳等は省略した。

補 説

- ※1 高坏……食べ物と盛る長い足のついた器。(P 16)
- ※2 石榭……石で造った棺の外わく。(P 18)
- ※3 羨道……横穴式古墳の入口(羨門)から玄室に至るまでの部分。(P 20)
- ※4 玄室……横穴式古墳の内部にあつて棺を納める室。(P 20)
- ※5 甌穴……急流の河床の岩石面に生じる鍋状の穴。(P 23)
- ※6 たたら……足で踏んで空気を吹き送る大きなふいご。(P 26)
- ※7 踐祚……皇位継承の第一順位にある者が天皇の位をうけ継ぐこと。(P 29)
- ※8 絶……太糸で織った粗製の絹織物。(P 34)
- ※9 潺湲……水の流れるさま、またその音。(P 40)
- ※10 宝篋印塔……宝篋印陀羅尼を納める塔、後には供養塔、墓碑塔として建てられた。(P 51)
- ※11 散華……仏に供養するために花を散布すること。(P 53)
- ※12 下地中分……下地とは中世の土地制度の用語で、年貢などの収益の対象となる土地そのものをいう。

ものをいう。

下地中分とは荘園の領家・地頭の紛争を下地の折半という形で解決する方

法(P 56)

- ※13 堂塔……神仏を祀る建築物を堂といい、仏陀の骨や髪などを祀る建造物。(P 57)
- ※14 六波羅探題……鎌倉幕府が京都に設置した官職名。(P 65)
- ※15 要衝……敵の攻めて来るのを防ぐ要害の場所。(P 68)
- ※16 院宣……院司が上皇または法皇の命令を受けて出す公文書。(P 79)
- ※17 畿内……近畿地方のこと。(P 79)
- ※18 修験者……山野において靈験を得るための法を修する修行者。(P 85)
- ※19 加持祈禱……密教で行う呪術。(P 85)
- ※20 袈裟頭……修験者の頭。(P 87)
- ※21 赦免……罪を許すこと。過失を許すこと。(P 87)
- ※22 采地……領地・知行地。(P 89)
- ※23 三昧耶形……諸尊の所持する持物、弓、器、枝、印契などで諸尊を表わしたもの。(P 127)
- ※24 涅槃図……釈迦が入滅(死)に入る際のありさまを描いた絵のこと。(P 127)

- ※ 25 娑羅双樹 …… 釈迦が涅槃に入る場所の四方に、二本づつ植えられていた木(夏ツバキ)。(P 127)
- ※ 26, 冥府 …… 死者の靈魂が迷って行くという暗黒の世界のこと。(P 128)
- ※ 27 改易転住 …… 身分を奪われ、家禄・屋敷を没収され、他国へ移住させられること。(P 137)
- ※ 28 灌漑 …… 田畑に水を引いてそそぎ、土地をうるおす。(P 143)
- ※ 29 粒々辛苦 …… 米を作る百姓のなんぎはひととおりでないこと。(P 148)
- ※ 30 起請文 …… 事を企てて主君に願い出るための文書。(P 154)
- ※ 31 寺請証文 …… 江戸時代に庶民がキリスト信者でないことを寺が証明した文書。(P 154)
- ※ 32 宗旨人別改帳 …… 人々の宗派別に書き記した帳。(P 154)
- ※ 33 人頭課税 …… ひとりひとりに対して一律に同じ額の税を課する原始的な税金形態の一つ。(P 156)
- ※ 34 立毛 …… 田・畑に生育中の農作物のこと。(P 161)
- ※ 35 廻文 …… 回覧用の文書。(P 163)
- ※ 36 直訴 …… 順序を経ないで直接殿様や將軍などに訴えること。(P 168)
- ※ 37 与頭庄屋 …… 数か村(一か村ごと)に庄屋はいる)を支配する庄屋。(P 170)
- ※ 38 青面金剛 …… 病魔・病鬼を払い除く仏。(P 175)
- ※ 39 天帝 …… 中国の道教の神で、天を治め万物を支配する神のこと。(P 177)
- ※ 40 奉祀 …… おまつり申すこと。(P 179)
- ※ 41 講組 …… 農家が地神さんを信仰してお祀りする組。(P 180)
- ※ 42 加持 …… まじない。(P 182)
- ※ 43 身居 …… 徳川時代(江戸時代)の身分のことで、封建社会において、社会関係を構成する地位の上下のこと。(P 213)
- ※ 44 ベッドタウン …… 都市周辺の住宅地区。(P 214)
- ※ 45 施餓鬼 …… 仏教上の言葉、現世で悪い事をして餓鬼の世界(地獄のような所)で食物がなくて苦しむ人たちのため読経し供養すること。(P 218)
- ※ 46 勸善懲惡 …… 道徳にかなった善い行いをすることを勧め、悪い行いをした人をこらしめること。(P 228)
- ※ 47 月並法座 …… 毎月毎にする任職の法話(仏の話)。(P 228)
- ※ 48 彼岸会 …… 春分、秋分の日を中日として、その前後七日間に行う仏事のこと。(P 228)
- ※ 49 報恩講 …… 宗門・宗派を開いた僧の忌日に行う法事。(P 228)

- ※ 25 娑羅双樹 …… 釈迦が涅槃に入る場所の四方に、二本づつ植えられていた木(夏ツバキ)。(P 127)
- ※ 26, 冥府 …… 死者の靈魂が迷って行くという暗黒の世界のこと。(P 128)
- ※ 27 改易転住 …… 身分を奪われ、家禄・屋敷を没収され、他国へ移住させられること。(P 137)
- ※ 28 灌漑 …… 田畑に水を引いてそそぎ、土地をうるおす。(P 143)
- ※ 29 粒々辛苦 …… 米を作る百姓のなんぎはひととおりでないこと。(P 148)
- ※ 30 起請文 …… 事を企てて主君に願い出るための文書。(P 154)
- ※ 31 寺請証文 …… 江戸時代に庶民がキリスト信者でないことを寺が証明した文書。(P 154)
- ※ 32 宗旨人別改帳 …… 人々の宗派別に書き記した帳。(P 154)
- ※ 33 人頭課税 …… ひとりひとりに対して一律に同じ額の税を課する原始的な税金形態の一つ。(P 156)
- ※ 34 立毛 …… 田・畑に生育中の農作物のこと。(P 161)
- ※ 35 廻文 …… 回覧用の文書。(P 163)
- ※ 36 直訴 …… 順序を経ないで直接殿様や將軍などに訴えること。(P 168)
- ※ 37 与頭庄屋 …… 数か村(一か村ごと)に庄屋はいる)を支配する庄屋。(P 170)
- ※ 38 青面金剛 …… 病魔・病鬼を払い除く仏。(P 175)
- ※ 39 天帝 …… 中国の道教の神で、天を治め万物を支配する神のこと。(P 177)
- ※ 40 奉祀 …… おまつり申すこと。(P 179)
- ※ 41 講組 …… 農家が地神さんを信仰してお祀りする組。(P 180)
- ※ 42 加持 …… まじない。(P 182)
- ※ 43 身居 …… 徳川時代(江戸時代)の身分のことで、封建社会において、社会関係を構成する地位の上下のこと。(P 213)
- ※ 44 ベッドタウン …… 都市周辺の住宅地区。(P 214)
- ※ 45 施餓鬼 …… 仏教上の言葉、現世で悪い事をして餓鬼の世界(地獄のような所)で食物がなくて苦しむ人たちのため読経し供養すること。(P 218)
- ※ 46 勸善懲惡 …… 道徳にかなった善い行いをすることを勧め、悪い行いをした人をこらしめること。(P 228)
- ※ 47 月並法座 …… 毎月毎にする任職の法話(仏の話)。(P 228)
- ※ 48 彼岸会 …… 春分、秋分の日を中日として、その前後七日間に行う仏事のこと。(P 228)
- ※ 49 報恩講 …… 宗門・宗派を開いた僧の忌日に行う法事。(P 228)

- ※ 50 文化遺産……将来の文化的発展のために継承されるべき過去の文化。(P 229)
- ※ 51 古文書……過去の時代の史料となる古い記録。(P 262)
- ※ 52 来迎印……人の臨終(死)のさい、極楽に迎えてくれる仏の手印。(P 279)

本誌のできるまで

本誌の刊行をとりあげたのは昭和五十七年十月でした。町文化財保護審議会委員の方々に原稿執筆をお願いし、その後調査期間を設定し、再三の会合をかさねました。その結果編集方針、執筆要項など決定し、昭和五十八年八月脱稿へと努力をしてきました。

各委員より提出された原稿は、専任委員を中心に検討をかさね加除修正を加え、更に専門委員により全体の監修を行い、掲出の写真は専任委員にお願いして漸く完成をみることができました。刊行の声をあげて着手以来二年有余の間、心をくゞき鋭意編集にあたったのですが、資料の不足に加えて私達の微力のため、将来の研究にゆだねる部分も数多くあります。

しかし、執筆委員の他に小学校・中学校選出の特別の委員のご協力により、よりよい本誌となりましたことは幸いです。それぞれの委員の涙ぐましい努力の結果である本誌を、ぜひご愛読くださいますようお願い申し上げます。

鴨島町教育委員会

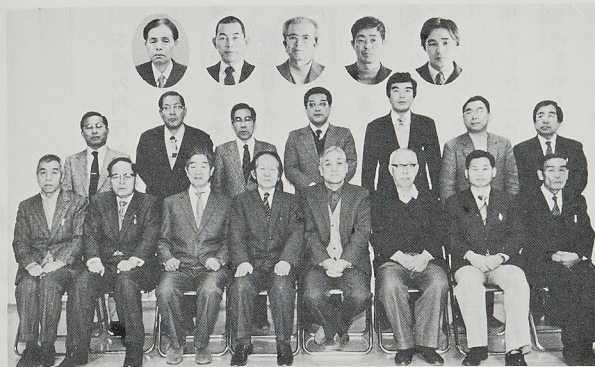
かもしま町の歴史とゆたかな文化財

表紙 藤井寺本尊
題字 新居 藍州

発行日 昭和59年3月1日

発行 鴨島町教育委員会
編集 かもしま町の歴史とゆたかな文化財
編集 委員会
印刷 坂東印刷所
鴨島銀座・TEL (08832) 4-2234

非売品



委員
員長

編集委員

後藤田浩司	工藤俊夫	佐野辰夫	川端宣夫	石原佳和	桑原昭	松川春信	井上忠利	河野徳三郎	小西齊	三谷智章	日野総一	坂東章	田中善隆	多田高信	芝原富士夫	佐藤文彦	石原芳一	青木幾男	植村芳雄	
鴨島町社会教育主事	鴨島町社会教育主事	鴨島町社会教育主事	鴨島東中学校教諭	鴨島第一中学校教諭	鴨島小学校教諭	知恵島小学校教頭	派遣社会教育主事	鴨島町中央公民館長	鴨島町教育次長	鴨島町教育次長	鴨島町教育次長	鴨島町教育次長	鴨島町教育次長	鴨島町教育次長	鴨島町教育次長	鴨島町教育次長	鴨島町教育次長	鴨島町教育次長	鴨島町教育次長	鴨島町文化財保護審議会委員

